



Title	<紹介>信多純一著『現代語訳 完本浄瑠璃物語』
Author(s)	山中, 晋也
Citation	語文. 2013, 100-101, p. 156-156
Version Type	VoR
URL	https://hdl.handle.net/11094/70921
rights	
Note	

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

The University of Osaka

信多純一著『現代語訳 完本浄瑠璃物語』

山中 晋也

現在、「浄瑠璃」と言えば、義太夫節をはじめとする古典芸能を一般的には指すものと思われる。「浄瑠璃物語」(この物語は「浄瑠璃御前物語」、「浄瑠璃」、「十二段草子」などの種々の呼び方がある。)は、三河国矢作の長者の娘、浄瑠璃姫と、若き日の源義経との悲恋を描いた物語で、今日の「浄瑠璃」の源流となる作品である。

『現代語訳 完本浄瑠璃物語』(以下、本書と呼ぶ)は、本学の名誉教授の信多純一先生の前著『浄瑠璃御前物語の研究』(岩波書店、二〇〇八年八月)における成果に基づいた、「浄瑠璃物語」の現代語訳である。本書の解説で著者は次のように書いている。

本書はそれをもとに(稿者注:『浄瑠璃御前物語の研究』を指す)、山崎本を主に各本から集めて本文を作り、それを現代語に訳して復原したものであり、初めて「浄瑠璃」の全体像を現代に蘇らせたものである。

本書が刊行された意義の第一として、現代語訳で『浄瑠璃物語』の全体像を示したことである。諸本間で異同の多い作品であるが、それを精査し、諸本の原文の切り継ぎではなく、現代語訳という形式で復元したことで、初めて『浄瑠璃物語』の全体像が容易に把握できるようになったということは、大きな研究的意義を有することだと思われる。第二には、現代語訳という親しみや

すい形にしたことで、研究者だけでなく、古典文学を愛好する人々や、『浄瑠璃物語』を知らない高校生や中学生にとっても、益するところは大きいと思われる。また、諸本の絵の中から、各場面にふさわしいものを挿絵として多く掲載しており、現代語訳の内容の理解を深めるものとなっている。解説には、『浄瑠璃物語』の文学史的位置づけ、特性や、どのように享受、発展していったかなどについて詳しく説明されている。

本書の構成は以下の通りとなっている。

一段 願立て／二段 御曹司の鞍馬入り／三段 鞍馬下り／四段 泉水揃え／五段 草子の段／六段 笛の段／七段 忍びの段／八段 帳台入り／九段 やまと言葉／十段 御座移り／十一段 吹上の上段／十二段 吹上の下段／十三段 御曹司の秀衡入り／十四段 笹谷の上段 浄瑠璃御前のさいご／十五段 笹谷の下段／十六段 御曹司都入り／解説／あとがきにかえて

なお、『浄瑠璃物語』を原文でお読みたい方には、信多純一・阪口弘之校注『新日本古典文学大系90 古浄瑠璃 説経集』(岩波書店、一九九九年十二月)に『浄瑠璃御前物語』として信多先生が校注を付されたものがあり、研究面については、既に書名を挙げたが、『浄瑠璃御前物語の研究』が刊行されている。こちらの二書も本書とあわせてご参照頂けると幸いである。

(和泉書院、二〇一二年十二月、一五五頁、三、〇〇〇円)

(やまなか・しんや 本学大学院博士前期課程)